

連載：医師と働き方改革 Vol. 1

内視鏡で足腰、手首が痛い！医師の健康被害を防ぐアイデア

キャリア 2021年10月19日(火) 浅利圭一郎



医師の働き方改革について考える本連載。愛知県一宮市の山下病院で消化器内科医として勤務する松崎一平先生は、診療と並行して、人間工学に基づく医師の働き方改革の研究に取り組んでいます。松崎先生が医師を志した理由と、そうした研究に取り組むことになったきっかけについて伺いました。

長時間の立位がハードな外科医を敬遠した研修医時代

先生が医師、そして消化器内科医を志したきっかけは何だったのでしょうか？

父が外科医だったのですが、小さい頃は料理人や建築家になりたいと考えていました。また大学受験をする中で、苦手だった化学を基礎から学び直し克服したことをきっかけに、高校でわかりやすく化

学を教える先生になりたいと思った時期もありました。その頃、ああ、自分は勉強が比較的好きなんだなということにも気づいたんですね。

どの仕事もそうですが、特に医師は患者さんの命を預かる職業でもあり、常に最先端の知識を取得しなければならない。一生勉強し続けられて患者さんからも感謝されて、安定した職業ということで選択しました。

さらに研修医の2年間で、勉強だけでなく医療手技が好きなのだと気づきました。外科、脳外科、循環器内科、消化器内科の選択肢を考えていましたが、外科手術は長時間の立位姿勢が耐えられないと思い、進むのはやめたんです。

消化器内科医に進むと決められてからは、どのようにキャリアを重ねていたのでしょうか。

名古屋大医学部附属病院で臨床と研究の研鑽を積み、博士号を取得後、2015年10月に現在の職場である山下病院へ赴任しました。ここでも、患者さんの治療をしながら臨床研究に取り組んできました。「苦痛の少ない経鼻内視鏡」「内視鏡治療時の安全な麻酔法の確立」「磁気を利用した内視鏡治療」など、内視鏡診療を中心に、患者や検査・治療の視点に立った研究が多くを占めています。



2018年11月のAPDW 韓国で山下病院の服部昌志理事長とともに（左が本人）

立ちっぱなしの内視鏡治療で筋骨格系障害に。そのことがもたらした、思わぬ「転機」

先生が医師の働き方改革という観点をもったきっかけは何でしょうか？

内視鏡手術（特に内視鏡的ポリープ切除術や内視鏡的粘膜下層剥離術が専門）を繰り返す中で、2018年に腰と手首の筋骨格系障害になり、3か月以上、大腸内視鏡検査・治療を休まざるを得なくなりました。自らに起こったことがやはり大きなきっかけです。

内視鏡治療中は2時間近く内視鏡を持ったまま立ちっぱなし、電気メスを動かすためのペダルを足で細かく動かさねばならないので、腰や軸足の負担になります。大腸内視鏡を扱う時は、その独特のひねり操作により右手首にも負担が生じます。われわれの調査でも、

そのような負担を感じている内視鏡医師は非常に多いことがわかっています。私自身、「どんなに内視鏡技術が向上しても、体を壊してしまえば患者さんにそれを提供できない」ということを痛感しました。

身をもっての体験で、これは研究していかなばと一念発起されたのですね。

その年の 11 月に韓国で行われた内視鏡学会に当院の理事長と学会発表に行ったんですね。理事長は藤田医科大学で講師まで勤められた研究者で、私の赴任当時から「臨床研究を通じて常に一步先、最新の内視鏡を学び作り上げる」という考え方を全面的にサポートしてくださっています。私は学会に行く時、かならずいくつかの「Take home message」を持ち帰ることを信条にしていますが、このとき持ち帰ったのは「内視鏡医に適した椅子の開発ができないか？」という message です。

学会のライブ配信で、アジアから来られたひとりの先生が、ぎこちないながらも低い椅子に座って内視鏡治療をやっていました。当時、私は長時間立った状態で内視鏡治療を行っており、先ほど申し上げたように腰を痛めてコルセットを巻いていました。じつは、日本だけでなく世界中のほとんどの内視鏡医が立ったまま内視鏡を行っています。帰国の途につく中で、内視鏡専用の椅子を開発できないだろうかと思ったのです。

ちょうどその頃、臨床研究法が施行されて一般病院では患者さんを対象とした先進的な研究のハードルが上がった時期でした。それでも、われわれ医療従事者を対象とした研究ならば、私でも進めることができると思ったのも理由のひとつです。



APDW2018 韓国で「磁気アンカーを利用した内視鏡治療」について発表した際の様子

医師の働き方改革と言えば、まず長時間労働の是正やチーム制の導入などにフォーカスされがちです。松崎先生が着目した、内視鏡検査に伴う“長時間立ちっぱなし問題”の解決は、どのように医師の働き方改革に結びついていくのでしょうか？次回は、研究をどのように進めてきたのか、そして今後の展望などについてのお話を紹介します。

【プロフィール】

松崎一平先生
消化器内科医

1978 年愛知県生まれ。2004 年岐阜大学医学部卒業。名古屋大学消化器内科で医学博士を取得。日本消化器病学会東海支部評議員（2021～）、日本消化器内視鏡学会東海支部評議員（2020～）、学術評議員（2021～）。経鼻内視鏡、EUS-FNA や、磁力を使用した ESD などの臨床研究を報告。現在は医療法人山下病院消化器内科統括部長として勤務するかたわら、自らの筋骨格系障害の経験を糧に日本人間工学会にも所属、準専門家の資格を取得して内視鏡医療従事者の働き方改革＝「内視鏡×人間工学」の啓蒙活動に取り組んでいる。

文・浅利圭一郎

写真・松崎一平先生提供